

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス unico大野城		公表日	2026年4月30日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・一人あたりのスペースを十分に確保し、お子さまの活動や状態に応じて空間を使い分けながら支援しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日の清掃・消毒等を行いながら、安心して心地よく過ごせる空間づくりに取り組んでいます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・お子さまの状態に応じて、個別に対応できる場所を設定しながら支援しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・日々の振り返りや会議を通して、支援や運営について確認しています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・第三者機関からの評価を受ける代わりに、本社職員を事業所に派遣して評価を行う内部監査制度を年2回実施しております。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・入社時研修や月1回の定期研修等、定期的な学びの機会を設け、職員の資質向上に努めています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・お子さまの状況やご家庭のニーズを踏まえて個別支援計画を作成しています。	・支援の意図やねらいが十分に伝わりきっていない面もあるため、アセスメント内容や計画の共有をより丁寧にしていく必要があります。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			・支援開始前には毎日打合せの時間を設け、その日の支援内容や役割分担、留意点を確認した上で、チームで連携して支援を行っています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			・支援終了後に振り返りを行い、気づきや課題を共有しています。 ・お子さまの育ちにつながる支援実践に向け強化していきます
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	○			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○				
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			・必要時の体制は整えておりますが、今後、必要な場面に際して関係機関と連携してまいります。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			・現時点では継続的な情報共有や相互理解の機会には十分ではありません。必要に応じた連携のあり方を今後検討してまいります
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			・現時点では該当する実践がありません。今後、必要な場面に際して情報提供を行います
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			・現時点では、継続的な連携や助言・研修の機会には設けられていません。今後必要に応じて検討してまいります
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			・現時点では実施していません。今後の課題として検討してまいります

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		○		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達 の状況や課題について共通理解を持っているか。		○		・連絡帳や送迎時のやり取り、面談等 を通してお子さまの状況共有に努めて います。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支 援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の 参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		・家族支援プログラムや保護者向けの 研修機会については、今後の課題とし て検討していきます
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な 説明を行っているか。		○		・利用開始時に、運営規程や支援プロ グラム、利用者負担等について説明を 行っています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保 護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点 を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けて いるか。		○		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説 明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を 得ているか。		○		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、 面談や必要な助言と支援を行っているか。		○		・日々のやり取りを通して、相談に応 じ必要な助言や支援につなげていま す。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する 等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援を しているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける 等の支援をしているか。		○		・教室全体として安心して相談してい ただける関係性づくりを強化してい きます
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備す るとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合 に迅速かつ適切に対応しているか。		○		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用する ことにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこ どもや保護者に対して発信しているか。		○		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のた めの配慮をしているか。		○		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事 業運営を図っているか。		○		
非 常 時 等 の 対	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニ ュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に 周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している か。		○		
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発 生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行って いるか。		○		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況 を確認しているか。		○		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基 づく対応がされているか。		○		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他 必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が 行われているか。		○		

こ の 応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		・保護者様に安心感を持っていただけるよう、日々の対応や安全面の取組をより伝えていけるよう検討します
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	放課後等デイサービス unico大野城			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 1日		～	2026年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35名	(回答者数)	19名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 1日		～	2026年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さまが安心して過ごし自分で選び活動できる環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ お子さま一人ひとりの特性や状態に応じて、安心して過ごせる関わりや環境づくりを意識しております ・ 集団活動だけでなく、個別で落ち着いて過ごせる時間や場面も確保しながら、お子さま自身が活動を選びやすいよう支援しております ・ 日々の支援の振り返りを通して、お子さまに合った課題設定や関わり方を検討しております 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も、お子さまが安心して過ごしなが、自分で選び挑戦できる環境づくりを継続してまいります ・ お子さま一人ひとりの育ちにつながる支援となるよう、活動設定や関わり方をより丁寧に積み重ねてまいります
2	活動やワークショップを通した多様な経験機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の活動やワークショップを通して、楽しみながら様々な経験ができるよう取り組んでおります ・ お子さまの興味関心を活かしつつ、人との関わりや挑戦につながる機会となるよう意識しております ・ 活動後には振り返りを行い、次の支援や活動設定につなげております 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、お子さま一人ひとりの療育課題や育ちによりつながるよう、活動のねらいをより明確にした支援を行ってまいります ・ 主体性と協働の両方が育つ機会となるよう、ワークショップの充実にも努めてまいります
3	身体を使った活動や感覚を活かした支援機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ お子さまが身体を使って遊んだり発散したりできる機会を意識して設けております ・ 室内外の活動を通して、感覚刺激や運動遊びを取り入れながら、お子さまの状態に応じた支援を行っております ・ 安全面に配慮しながら、活動内容や場の使い方を工夫しております 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も、安全面に十分留意しながら、身体を使った活動や感覚を活かした支援機会を充実させてまいります ・ 落ち着いて過ごしたいお子さまと、活動的に過ごしたいお子さまの両方が安心できる環境づくりを進めてまいります

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様に安心感や療育効果を感じていただけるような連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ お子さまの育ちにつながる支援を行っておりますが、そのねらいや変化が保護者様へ十分に伝わりきっていない面があると考えております ・ 教室として、よりお子さまの育ちにつながる支援を安定して届けるための実践や共有を整えている段階にあり、支援の考え方や意図が伝わりにくくなっている面があると受け止めております ・ 職員によって説明や伝わり方に差があるように受け取られ、ご不安や不信につながっている面があると考えております 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者様に安心していただけるよう、お子さまの活動の様子だけでなく、支援のねらいやどのような育ちにつながっているかまで具体的にお伝えしてまいります ・ 職員間で支援内容や伝達事項の共有をより丁寧に、説明や対応の差が生じにくい体制づくりを進めてまいります ・ 必要に応じて面談等も活用し、療育の考え方や日々の支援内容がより正しく伝わるよう努めてまいります
2	支援の専門性とワークショップの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ お子さま一人ひとりに応じた支援を行うためには、職員全体での見立てや支援方針の共有をより深める必要があると考えております ・ 日々の支援やワークショップにおいて、お子さまの療育課題に対するねらいが教室全体で一貫して実践されることが必要と考えております ・ 教室全体として支援の質を安定して届けるため、実践の積み重ねと共通理解の深化が必要な状況です 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々のリフレクションや振り返りを通して、お子さまの課題、支援の意図、関わり方をより具体的に共有してまいります ・ ワークショップや日々の活動についても、お子さまの育ちにつながる視点を踏まえて組み立てられるよう取り組んでまいります ・ 教室全体で共通理解を持ちながら支援できるよう、支援力向上と実践のすり合わせを進めてまいります
3	安全管理体制の再構築と周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全確保を前提に運営しておりますが、送迎時や活動時の説明不足、伝達の行き違い等が保護者様の不安につながっていると受け止めております ・ 安全面については体制を整えておりますが、その内容や日々の対応が十分に伝わらず、不安や不信を生じさせてしまっている面があると考えております ・ 教室全体として、確認・共有・伝達をより一層徹底する必要があると考えております 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理に関する確認事項や伝達事項について、教室内でより確実に共有できるよう取り組んでまいります ・ 送迎や活動時の対応についても、必要な説明や共有が保護者様へ適切に届くよう努めてまいります ・ 今後も、安全確保を前提とした運営を徹底しながら、安心してご利用いただけるよう取り組んでまいります